

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4071401717		
法人名	(株) あおいホーム 代表取締役 田添 加代子		
事業所名	グループホームあおい		
所在地	福岡市早良区西入部2-7-20 (電話) 092-803-0381		
自己評価作成日	令和 元 年 12 月 24 日	評価結果確定日	令和 2 年 3 月 16 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

毎朝、必ず歌を歌っている。
お食事は、厨房手作りの無添加のものを、提供している。
朝の外気浴は、身体的、精神的にも、入居者の健康の源になっている。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会
所在地	福岡県春日市原町3-1-7
訪問調査日	令和 2 年 1 月 16 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所周辺は交通量は少なく、二級河川、田畑が広がり、自然豊かな環境にある。庭も広く、芝生や草花が植えられ、フロアからの眺望は良い。食事は三食とも事業所内で調理し、嚥下状態に応じた食事形態を提供する。医療面では、医師、訪問看護と連携し、看取り介護の実績がある。職員は、イベントで利用者、家族を楽ませるためダンスを練習して、披露することもある。イベントは、写真に収められ、壁に掲示したり、運営推進会議での報告や広報誌発行と活動内容がアピールできている。調査中、利用者は笑顔で過ごしているため、普段から職員の関わり方の成果が反映されている。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおいホームの理念は設立当初から一貫して変わることはない。「その人らしく穏やかに」暮らしを頂けるよう心掛けている。これは、家族の希望と一致している。これからさきも個別ケアを大切にしていきたい。	事業所の理念は利用者本位の視点があり、実践につなげるため、ケアプランに位置付け統一した支援を目指している。日頃から利用者と家族とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係が構築できるよう取り組んでいる。日々の散歩や外気浴では、地域の方々と会話を通じ、交流が保てている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会等にも参加させて頂き、親しくお話が出来る関係を作っている。地域の方々に当ホームを知って頂けるよう、行事等にはお誘いしている。	事業所は、地域に広報誌を配布したり、地域の夏祭りや運動会参加などで関わりを保っている。中庭近くの車道は、地域の方の散歩コースになっており、散歩途中にレクリエーションを一緒に楽しんだり、お茶を飲んだりすることもある。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホーム作成のパンフレットや機関誌などを地域の方や事業所に配布・郵送している。入居に関する問い合わせがあれば見学して頂くようご案内し、施設での暮らしを知って頂き、地域の方々の生活を支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、民生委員、地域包括支援センター、訪看センター理事長、家族会の代表二名が参加され、ホームの職員、看護師、介護士が、入居者の状況報告を行い、活発な意見交換を実施している。他の施設からの参加も、歓迎している。	運営推進会議は2か月に1回開催しており、業務報告や予定、入居状況、レクリエーションなどの活動写真の紹介が主な議題となっている。利用者家族の代表が2名参加され行政や元民生委員、福祉事業関係者を交え意見を交わしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や、地域包括との連携をこまめにとり、情報交換をしている。	管理者は、介護保険制度に対して解釈の違いが生じないよう事前に行政に問い合わせ、了解を得たうえで運営している。実績のある看取り介護について、研修会の事例として発表された。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修において、拘束になるものを、職員全員が理解し、意識を持って、入居者が、穏やかな生活を送っていられるよう、工夫している。	事業所のすぐそばには河川があり、日が落ちると暗く、人通りも少ないことから終日玄関は施錠している。施錠については家族からの要望もあったが、同意書は作成していない。委員会や研修会、マニュアルは整備しており、施錠以外の身体拘束は行っていない。	利用者の安全を確保しつつ、自由な暮らしを支援するために、玄関を施錠しない時間を確保できるように、工夫した対応を検討して欲しい。また、玄関施錠に関しては、家族への説明と文書での同意が必要である。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講し、内部研修にて全職員の知識、認識を再度徹底していくよう努力している。不適切なケアを行うことのないよう、職員の介護に対する意識を高め、お互いストレスを溜めないように声掛けをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を積極的に受講し、その後の職員会議で情報を共有し、権利擁護制度についての理解を深めている。現在、制度を利用されている家族があり、家族を介して弁護士、司法書士と連携を取っている。	成年後見制度に関して、家族からの相談は受け付けているが、あらかじめ、制度についての説明は行っていない。職員は外部研修受講実績があり、研修報告会としての内部研修で知識を広めている。	福祉職員として、権利擁護に関する制度について家族へ情報提供および関係機関への橋渡し役となることが求められます。説明機会を検討することを期待します。
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約または改定の際は、利用者の家族に充分説明し、理解納得して頂き了解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が、いつでも何度でも面会に來所できる雰囲気や、環境作りを心掛け、家族からの、さりげない言葉から、情報をくみ取り、運営に反映している。	利用者の要望は日々聞き取られ、言えない利用者も生活歴から勘案し、家族とも連携しながら運営に反映している。新聞の購読や外出機会の確保、終末期医療などについて、本人の意見を尊重しながら、日々のケアに取り組んでいる。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、職員会議を実施し、その後、各階で、フロアミーティングを行い、職員間で意見を出し、運営に反映している。	管理者は毎月の全体会議やフロアミーティング、職員との個人面談で、運営に対する意見や提案を聞き入れる。利用者、家族等に楽しんでもらうために、職員主導にて、行事を企画運営している。楽しんでいる様子が写真で壁に掲示されている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準を検討し、個々がしっかり自分の能力を発揮し仕事ができる環境を作りたいと考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	<p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している</p>	<p>管理者として、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、職員が働きやすい環境を作るべく個々の能力を発揮しやすい勤務体制を作るよう心掛けている。</p>	<p>事業所は職員の資格取得に対して、シフト調整や受講費用補助など支援を行っている。無資格でも採用をしており、外部研修や内部研修にて自己実現を目指す体制がある。外部研修は、研修内容に関係する委員会の職員が参加するという工夫されたシステムとなっている。</p>	
14	10	<p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>職員の外部研修への参加を促している。入居者への対応・言動・一人一人に尊厳を持って介護にあたるよう指導している。</p>	<p>人権を尊重する姿勢は理念にも謳われ、職員の代表者が人権全般（同和問題、障害者問題、セクシャルマイノリティー、パワーハラスメント）に関する外部研修会に参加している。</p>	
15	—	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>イベント等の企画を担当する事により、職員一人一人の実力を確認し合い全体的に能力を高めている。行事等の趣旨を理解し、各担当の責任を個々で感じてもらう。内外の研修を受ける機会の確保に努めている。</p>		
16	—	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣の同業者との交流や勉強の場として「いとの会」を設け、視野を広め、ネットワーク作りに役立っている。各研修も他施設との交流の場としてとらえ、地域の方々へのサービス提供の質を高めていくよう、努力している。</p>		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>本人が、不安がっていたり、困っている時は、コミュニケーションをとり、安心できる様、努めている。</p>		
18	—	<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>ホーム入居申込時には、入居を決めるに至った家族の心情を受け入れ、入居後の面会時や、行事の時には、極力お話しする時間をつくり、その中から、不安や、要望の理解に努めている。</p>		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に、当ホームでのサービス内容や、生活スタイルをお伝えし、ご本人や家族の希望に合うのかを、判断していただいている。個別の要望があれば、可能な限り、支援できる様努めている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の能力、状態に合わせて、できる事、出来ない事を見極め、支援を行う。入居者と職員の信頼関係が出来るコミュニケーションを図る事で、良い関係ができています。		
21	—	○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	当ホームの行事、誕生会や、クリスマス会等、御家族の参加の呼びかけを行うことで、本人、家族と共に、楽しい時間を過ごしていただいている。又、年2回のあおいだよりを発行し、当ホームの行事や、生活状況について、知らせている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、知人等の来訪時には、ゆっくり過ごせるようセッティングし、飲み物など、提供している。関わりの中から得た情報や、入居者のご様子は、記録に残し、その後のサービスの資としている。	職員は入居前の事前面談で馴染みの人や場所を把握している。入居後も知り合いの訪問や納骨堂へのお参り、自宅への外出など家族と連携しながら、支援している。併設されたデイサービスの利用から、入居するケースもあり、建物など環境に慣れている。環境の違いからくる心身の変化は、最小限に抑えることができています。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を把握し、自然な関係ができるよう、見守りを重視している。入居者が、他の入居者のお世話をしたり、微笑ましい光景もある。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後であっても、ご家族が立ち寄って下さったり、お手紙等で近況を知らせてくださる。適宜、お見舞いに伺う事もある。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入所時や、定期的なアセスメントによって、本人の意向、希望を聞いている。又、本人の聞き取りが困難な時は、ご家族に聞く等して、検討・対応を、行っている。	入所後、利用者の状況に応じ、1ヶ月～6ヶ月の間でアセスメントをしている。利用者1名につき「ケアプラン関連」、「医療情報関連」、「経過記録」の3つのファイルを整備し、ホームでの生活を支援している。利用者・家族の生活への意向や思いはケアプラン1表に明記している。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴を把握し、その方に合った、快適な生活ができるように、支援を行っている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その方にとって、やりたい事を一緒になって考え、行い、心身状態に合わせて無理なく、一日を穏やかに過ごして頂けるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	状態変化が見られた時は、その都度、家族に報告し、スタッフ間で情報共有できるよう、声かけを行い、相談している。又、訪問や、医師と連携をとりながら、介護計画作成・修正を行っている。	ケアプラン実施と同時に、実施状況のモニタリングが始まり、ケアマネジャーの元には、全職員からの日々の気付きや意見が届けられて来る。それらを元にしたフロアミーティングで、利用者に関する問題や課題が整理され、それに医療分野からの意見を加えたものが担当者会議で検討され、次期のケアプランが策定される。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や、個人記録に、日々の様子や、気付き等を記録に記入している。又、月一回の職員会議のフロアミーティングの中で、介護計画の見直しや、情報共有を行う事で更なる介護計画に活かすことができる。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	面会時間などは、設けておらず、早朝や、夜遅くでも、面会者の都合に対応している。通所、入居それぞれに離れて利用の夫婦や姉妹など、お会いできるよう、時間や場所に配慮している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	秋祭りでは、地域の方々をお招きしている。又、クリスマス会等の行事には、御家族をお招きし、一緒に楽しむことができる支援を行っている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	内科、精神科、歯科、眼科の定期的往診を受けている。訪看ステーションからも、定期、非定期の来訪があり、契約に基づき、上記医療機関、訪問看護との連携をはかり、入居者の健康管理を行っている。	かかりつけ医療機関との協力関係が確立している。要注意者が出た場合についても、各関係医療機関からの指示や連絡により、ホームでの異常の見落としがないよう観察と情報の共有に努めている。協力医療機関外への受診は、家族が行うことになるが、その際にも、移送事業者についての情報を提供している。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	スタッフ全員が、情報共有できるように、口頭での申し送りや、書面での申し送りを行っている。利用者の状態変化がある時は、訪看に電話し指示をもらい、対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時は、訪問看護、家族との電話や、面会時に、情報共有を行っている。往診時に、訪看、医師に報告や、相談を行い、いつでも気兼ねなく相談できる。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族とは、年に数回、面談を行っている。状態が重度化してきた段階で、主治医と訪看スタッフも交え、家族、入居者の意向に耳を傾け、治療方針、看護、介護の方針なども確認し合っている。	入所時に「緊急時の対応についての同意書」「ホームでの看取り同意書」を取り交わしているが、利用者の状況が変わる度に関係者で話し合いを重ね、互いに誤解や不満が生じないように努めている。別棟は、「看取り」が始まった利用者の家族の宿泊場所としても利用されており、利用した家族に大いに感謝されている。	
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時、初期の対応、(訪問看護ステーション、医師)連携など、職員は、実践力共に身につけており、外部への研修、内部勉強会など、行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練をし、時間、出火場所等、夜間、日中設定の避難訓練をしている。地震・水害も、近隣の消防学校と協力している。	スプリンクラーを取り付けている。消防学校が直ぐ近くにあるため、防災・減災面で有益な支援を受ける事が出来ている。敷地内別棟は、雪や台風時の職員の宿泊施設となっている。避難訓練実施に就いては、事前の運営推進会議の場で地域関係者に伝えられている。敷地内別棟倉庫に非常用食料・飲料、備品がきちんと区別され準備されている。	グループホーム内に備品等は保管して欲しい。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人一人のプライバシーを損ねないように、言葉遣い、声かけや、対応に注意して、その人らしい生活ができる様に、努めている。	食事時間など、ホームの流れに合わせるのではなく、利用者のリズムに合わせている。自室ドアの小窓を通して室内の様子が知られないよう、小窓は高い位置に作ってある。家族との面談はホーム内で行わず、別棟で行われている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望を聞き、それに添えるように心がけている。又、日頃の会話や動作から、思いをくみとれる様に、心がけている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースを把握し、希望に添うように、心がけている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回、訪問美容室をお願いしている。季節の行事では、お化粧品、髪型、服装のコーディネート、アクセサリなど身につけ、外出時にも、身だしなみに気を付けている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材や、メニューの話をしなが、食事をして頂いている。食後には、トイレや、テーブル拭きのお手伝いをして頂いている。	利用者の昼食への興味を喚起するために、お昼前のレクレーションの最後に昼食の献立を説明している。「個別ケア」に立って、利用者の好みや能力に応じて、食事の形態や量は調整されている。本人の好みに応じると共にアレルギー食や治療食にも対応している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人に合った食事形態を取り入れ、摂取量、栄養バランス、水分量も、お一人に合った支援を行っている。又、嚥下状態が低下している方には、トロミをつけたり、スタッフが、声かけを行いながら、摂取できる支援を、行っている。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人の能力に応じて、援助している。口腔内、舌のケア、磨き残しの確認を行い、口腔ティッシュ、スポンジブラシを使用している。義歯は、夜間のみ入歯洗浄剤で、消毒を行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人のトイレ誘導や、パット交換を行う中から、排泄パターンの把握に努め、汚染頻度や、パット汚染による使用枚数の減少を目指している。夜間は、熟睡を妨げない範囲で、トイレ誘導を行っている。	「個別ケア」に立って、利用者個々の排泄リズムやサインに応じて排泄を支援している。兆しを示す利用者については、職員全体で見守りして、排泄へと導いている。トイレでの排泄を支援することで、ポータブルトイレから、トイレで排泄する生活ができるようになった利用者もいる。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ラジオ体操・リハビリ体操・日常生活活動を利用しながら、常に身体を動かす事を念頭に置き、対応している。食事水分摂取量の把握、定期的な水分補給を行っている。利用者の体格や状態に合わせて、水分摂取量を調節している・		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	一人一人の希望やタイミングに合わせて、声かけや、コミュニケーション、言葉かけに注意しながら、入浴を楽しめるように、努めている。	週に3日は入浴して欲しいと願い、一人一人に合わせて入浴支援が出来るよう、お風呂は日曜日も含めて毎日湧かしている。寒い時期には、脱衣室、浴室を十分に暖めている。入浴時間は、利用者と職員が1対1で、密度濃く、時間を過ごす特別な時という思いを基本に、楽しい入浴になるよう心がけている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、体調や状況に合わせて、居室で休まれる様、心がけている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方変更があった時は、スタッフ間で、書面と口頭での申し送り、情報共有している。特に、薬の副作用に注意し、利用者の状態変化の観察を行い主治医、訪看に報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴や、得意な事を把握し、その人に合った役割を持つ事で、楽しく生活できるように、支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や体調に配慮し、できる限り外気浴や、お茶、野外食を取り入れている。中庭が広く、草花を見て、特に女性は喜ばれ、天候の良い日は、戸外へと希望もあり、充分な支援が行われている。	外気に触れることを、利用者の健康を支える基本として、大切に位置づけて、実践している。気候や天気など、事情が許せば、毎日でも外出している。リフト車も所有しているため、季節の花々や風景を眺めに出かけている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が出来ないため、物の購入希望がある場合は、家族に了承を得て、使用している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人、自ら電話したり、手紙のやり取りは、行っていないと、思われる。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共同空間の整理整頓に努め、壁に行事の写真や、花の貼り絵を貼って楽しんでいる。テーブルや玄関に、花をかざり、庭に季節の花や、畑には、野菜を植え、収穫して食べて頂いている。	食堂からの眺めは素晴らしく、季節感にあふれた自然の変化を楽しめる。加湿器も各所に置いてあり、利用者の健康管理にも気配りがなされている。ゆったりとした雰囲気を感じられるように、テーブルや椅子、ソファは配置されている。また、トイレは食堂から見えない場所に設けられている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室には家族の写真や、バースデーカードなどを壁に飾り、穏やかに安心して過ごせるようにしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具や、思い出の写真など置いている。	ベッドとエアコンが初めから用意されている。自室にはトイレ、洗面台はないので、室内は清潔に保たれている。ドアの小窓は、高い位置にあるため、ドアを閉めてしまうと、外の気配を感じることなく生活を送れる。窓が広いので、明るく開放的に感じる。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の状態変化に合わせ、使用するトイレや、テーブル席など、できるだけ安全に動けるように、工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	あおいホームの理念は設立当初から一貫して変わることはない。「その人らしく穏やかに」暮らして頂けるよう心掛けている。これは、家族の希望と一致している。これからさきも個別ケアを大切にしていきたい。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の敬老会等にも参加させて頂き、親しくお話が出来る関係を作っている。地域の方々に当ホームを知って頂けるよう、行事等にはお誘いしている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	当ホーム作成のパンフレットや機関誌などを地域の方や事業所に配布・郵送している。入居に関する問い合わせがあれば見学して頂くようご案内し、施設での暮らしを知って頂き、地域の方々の生活を支援している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一回、民生委員、地域包括支援センター、訪看センター理事長、家族会の代表二名が参加され、ホームの職員、看護師、介護士が、入居者の状況報告を行い、活発な意見交換を実施している。他の施設からの参加も、歓迎している。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市や、地域包括との連携をこまめにとり、情報交換をしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部、内部研修において、拘束になるものを、職員全員が理解し、意識を持って、入居者が、穏やかな生活を送っていかれるよう、工夫している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修を受講し、内部研修にて全職員の知識、認識を再度徹底していくよう努力している。不適切なケアを行うことのないよう、職員の介護に対する意識を高め、お互いストレスを溜めないように声掛けをしている。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修を積極的に受講し、その後の職員会議で情報を共有し、権利擁護制度についての理解を深めている。現在、制度を利用されている家族があり、家族を介して弁護士、司法書士と連携を取っている。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解約または改定の際は、利用者の家族に充分説明し、理解納得して頂き了解を得ている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の家族が、いつでも何度でも面会に来所できる雰囲気や、環境作りを心掛け、家族からの、さりげない言葉から、情報をくみ取り、運営に反映している。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回、職員会議を実施し、その後、各階で、フロアミーティングを行い、職員間で意見を出し、運営に反映している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や勤務状況を把握し、給与水準を検討し、個々がしっかり自分の能力を発揮し仕事ができる環境を作りたいと考えている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	管理者として、職員の採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、職員が働きやすい環境を作るべく個々の能力を発揮しやすい勤務体制を作るよう心掛けている。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員の外部研修への参加を促している。入居者への対応・言動・一人一人に尊厳を持って介護にあたるよう指導している。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	イベント等の企画を担当する事により、職員一人一人の実力を確認し合い全体的に能力を高めている。行事等の趣旨を理解し、各担当の責任を個々で感じてもらう。内外の研修を受ける機会の確保に努めている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の同業者との交流や勉強の場として「いとの会」を設け、視野を広め、ネットワーク作りに役立っている。各研修も他施設との交流の場としてとらえ、地域の方々へのサービス提供の質を高めていくよう、努力している。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人の過去歴や、性格を理解し、思いを傾聴し、希望にそえるよう、その都度、相談して頂けるよう、関係づくりに努めている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の思いや、不安な事などに耳を傾け、日頃より、ご利用者様の近況報告を行い、関係づくりに努めている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まで必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の生活歴や、本人、家族の希望を聞き、ホームの特徴を伝え、情報として、他のサービスの利用も可能である事を伝えている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人一人の状態に合わせて、出来る事への支援を行う。入居者と職員が、同じ事を共有することで、支え合う関係ができています。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や、お誕生日会時、家族の参加を呼びかけ、一緒に過ごす事で、楽しい時間を持て頂くようにしている。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御家族、親類、知人等、馴染みの方が訪ねてこられた時は、お茶をお出しして、入居者にも飲み物を提供し、ゆっくりお話しができる雰囲気と場所にも配慮している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の性格や、相性を考慮して、席を決めたり、レクは、1F、2F合同でおこない、多くの入居者同士が、関われるようにしている。その時に、スタッフが間に入り、支援を行っている。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当ホームを退去されても、立ち寄って下さったり、礼状、年賀状をいただいたりして、近況を知らせて下さる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	希望や意向に沿った生活が送れるよう、支援を行っている。聞き取りが困難な方には、御家族から聞いて頂いたり、寄り添い、スキンシップ等行い、その方の思いや、視点に立ったつもりで、対応を考えている。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活歴や思い出話を、本人や家族から聞き出し、その方に合った生活を重視したサービスを提供できるよう心掛けている。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者のペースに合わせて、やりたい事を一緒になって考えていき、心身状態に合わせて無理なく一日を不安なく、穏やかに楽しく過ごして頂けるように努めている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回のカンファレンスや、状況変化時にも、家族、スタッフと話し合う機会をもち、検討している。又、必要に応じ、訪看や、主治医に相談し、意見や指示をもらいながら、介護計画を作成している。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌に日々の様子、ケアチェック結果、気づき等を個別に記録している。毎朝の申し送りや情報共有を図り、計画の見直しを必要とする時はミーティングを行い、介護計画に生かすことができている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の面会時は、短時間でも談笑して頂いている。併設するデイサービスとの交流もあり、各行事や天候の良い日は合同で野外食を楽しんで頂いている。1日毎1F2Fを移動してレクリエーションで歌や体操を楽しんでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	特養あおいのお茶会や、花見、ドライブ等に出掛け喜んで頂いている。外に出掛けることで表情を見せて下さり、ご家族からも様々な活動に喜んでいただいている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	御家族に、内科、精神科、眼科、歯科の往診が受けられる事を説明し、家族の意向を踏まえて、納得の得られた上で、主治医を決めて頂く。又、訪看ステーションとの医療連携を結んでおり、24時間体制で適切な対応を受けられる事も説明している。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職、介護職は日常の気づきや情報を常に共有し、訪問看護に報告、相談している。緊急時は訪問看護へ伝えて、適切な指示を受けて対応している。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時にはホームの主治医、訪問看護、職員が関わり、医療機関にて情報交換を行っている。退院時にはアドバンスケアプランニングを実施し、より良い関係作りを行っている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	定期的に家族と面談して、終末ケアについて話し、家族の意向を聞いている。当チームは、看取りを行っている事も伝え、安心されているご家族もいる。訪看、平野氏よりの説明をしてもらっている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に救急法研修に参加し、心肺蘇生法、出血時の止血法の訓練を行っている。研修に参加することでスキルアップにつなげている。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年一回、消防署の立ち合いのもと、避難訓練を行っている。その他、自主訓練を行っている。地震、水害時、避難経路も周知している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各自の居室訪問時、お部屋の掃除、片付けなど、本人への声かけして、行っている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に利用者の思いや、訴えを察知し、入居者がどうしたいのかを常に考え、対応するようにしている。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活歴に合わせて、無理強いをする事無く、希望に沿うように、支援を行っている。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月一回、訪問理容を行っている。イベントでは、化粧や、アクセサリ、服装で、本人らしく、おしゃれを楽しむ支援を行っている。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その日のメニューを伝え、楽しく食事ができるよう、個々の嚥下状態に合わせ調理をし、提供している。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	身体機能（咀嚼、嚥下等）に合ったものや、主食、副食の形態、嗜好を考慮し、水分摂取の確認、お茶、ポカリ、牛乳を毎回記録している。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人一人の能力に合わせ、毎食後口腔内や、舌のケアや、磨き残しのないように、チェックしている。うがいのできない方は、口腔ティッシュ、スポンジブラシを使用し常に口腔内の衛生を保つようにして、義歯は、夜間時に、ポリドントを使用している。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを見極め、声かけを行い、支援している。汚染時は、素早く処理を行い、本人の負担軽減に努めて支援を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入居者の排便パターンを理解し、水分量や、食事を把握している。毎日のラジオ体操、リハビリ体操で体を動かすように努めている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	入浴は、基本的には午後から行うようにしているが、拒否等ある場合は、入浴時間を変えたりして、スムーズに入浴して頂けるように、心がけている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は、体調状態を考慮し、臥床や休憩時間を設け、対応している。就寝は、一人一人の入眠時間に合わせて、臥床を促している。夜間時、一時間毎、巡回を行っている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の処方把握し、指示通りの服薬支援を行い、症状や体調の変化は、訪看へ報告し、主治医の指示を仰ぐ。服薬の変更は、職員が周知する。又、変更後は、訪看へ、報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員と共に、洗濯物干し、たたみの手伝いをして頂き、常に、ありがとうございますと、声掛けし、達成感や、役にたっているという気持ちを持っていただける様に支援している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	体調に配慮しながら、中庭で外気浴、歌、野外食を行っている。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	平均年齢87.9歳、介護度3.6の為、入居者は、お金の管理ができない為、本人の希望があれば、家族へ報告し、対応している。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望があれば、家族の了解のもと、電話をかけ、お話しされて、安心される。手紙、ハガキは、自分で書くことのできない方は、代筆し、対応している。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	整理整頓し、季節感を出し、居心地の良い空間を提供している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置き、テレビを観られるようにしている。読書や、パズルを楽しまれる方は、テーブルで過ごされ、常に、行動や想いを把握し、思い思いに過ごされる工夫をしている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日の片付け、掃除をし、気持ち良い居室を手掛けている。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室のドアには、氏名を入れ、自室がわかるようにしている。入居者の状態にあわせ、テーブルやソファの配置、配席を考え、安全に過ごされるよう、工夫している。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)	○	①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
				③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
			○	③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目 (アウトカム項目)						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	① ほぼ全ての家族と		
				② 家族の2/3くらいと		
				③ 家族の1/3くらいと		
				④ ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	① ほぼ毎日のようにある		
				② 数日に1回程度ある		
				③ たまにある		
				④ ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	① 大いに増えている		
				② 少しずつ増えている		
				③ あまり増えていない		
				④ 全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	① ほぼ全ての職員が		
				② 職員の2/3くらいが		
				③ 職員の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての利用者が		
				② 利用者の2/3くらいが		
				③ 利用者の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	① ほぼ全ての家族等が		
				② 家族等の2/3くらいが		
				③ 家族等の1/3くらいが		
				④ ほとんどいない		